

ISSN 0389-7494

佐藤卓三

4,000,-

会誌

第 21 ~ 22 号

昭和 57 年 3 月

21.22

卷頭言.....会長 小林 貞作 1

研究発表

1. ズワイガニとベニズワイの雑種二代目の不稔について...堀 井 直二郎 3

2. 蛾の訪花について.....田 中 忠 次 11

3. 1981年の昆虫メモ.....田 中 忠 次 22

4. 日本カモシカの歯について.....坂 下 栄 作 24

5. 馬の歯について.....坂 下 栄 作 28

6. 庄川のアユについて.....佐 藤 久 三 43

7. 富山県東部におけるイワツバメの分布進化.....太 田 保 文 45

8. ユーラシア大陸と北米大陸のフロラならびに植生.....本 多 省 三 51

本 多 啓 七

野外研修会報告.....73

本 会 記 事.....81

会 則.....83

会 員 名 簿.....85

編 集 後 記

富山県生物学会

巻 頭 言

会長 小 林 貞 作

このたび、ここに富山県生物学会誌第21～22号の発刊を迎えることになりました。これは本学会の活動の躍進を意味するもので、ご協力いただいた会員諸氏に対し、深く敬意を表わするとともに、まことに喜ばしい限りである。

いまさら申すまでもなく、人類は生物資源なしでは一日たりとも生活することはできない。生物資源を人類が開発利用してきたのが有用植物（作物）、有用動物（家畜）、魚類（畜養）などである。

しかし、世界的な視野に立ってこれをみると、まだ生物資源の有効利用の点で、たち遅れている国々が多く存在する。すなわち、それは発展途上国といわれている国々である。最近これらの国々を訪れる機会が多いが、その立ち遅れの一つの大きな原因は、生物資源利用のための基礎生物学的研究の立ち遅れに帰因することが多い。たとえば、熱帯起源の主要作物であるイネの遺伝学、生態学および生理学などの立ち遅れ、また油脂作物のゴマについても同様なのである。これらは栽培技術などの応用面での立ち遅れではなく、いづれも生物学的な基礎研究の遅れであることに気付くのである。したがって、生物学的基礎研究の進んでいる国ほど、生物資源の生産性が高いと言っても決して過言ではないであろう。

上に述べた見地から、生物学の重要性をあらためて認識し、本学会誌21～22号の発刊を祝福するとともに、本学会発展のため、いっそうのご協力をお願いする次第である。